

目 次

提言要旨	1
第1章 現況	2
1. 概要	2
2. 性別・年齢階層別人口の現状と将来見通し	2
3. 目的別トリップ数の現状と将来見通し	3
第2章 目標と課題	4
1. 目指すべき将来像	4
(1) 地域住民の活動拠点への交通手段が確保されていること	4
(2) 住民のニーズの変化に対応できること	4
(3) バス交通の維持ができること	4
2. 地域公共交通の課題	4
(1) 既存のバス路線の再編	4
(2) 住宅地と駅を結ぶ公共交通網	4
(3) 住宅地と活動拠点を結ぶ公共交通が不十分	4
第3章 政策提言	6
1. 行動計画の提言	6
2. 具体的な施策	6
(1) 地域公共交通対策活性化協議会の充実	6
(2) 基幹路線の確保	6
(3) 地域路線	8
(4) 財源の確保	10
3. 期待される効果	12
おわりに	12
用語解説（ことばの定義）	13

(提言要旨)

変化する住民ニーズに対応したまちづくり バス交通の再構築に必要な行政の役割

【現況】

- ・現在の日本人の5人に1人は65歳以上の高齢者ですが、5年後には4人に1人、25年後には3人に1人を超えるものと見込まれています。
- ・自家用車を自ら運転することができないお年寄りや体の不自由な方々には移動が困難な地域が生じています。
- ・地方のバス、タクシー、鉄道、旅客船の旅客数は、過去10年間で2割減、20年間で4割減と落ち込み、赤字の会社が増え、運行の維持が困難なところが増えています。
- ・奈良県生駒市でもバス路線に対する住民のニーズが、高齢化の進展に伴い、駅までのアクセス中心から市内循環の新設を求める等、変化しています。このまま放置しておくとう安全で安心な輸送が脅かされかねません。そこで、「地域公共交通の再生及び活性化に関する法律」に基づき、地域公共交通対策活性化協議会を設置し、地域公共交通総合連携計画を策定しています。そして、平成23年1月には、地域公共交通総合連携計画素案が示されています。

【目指すべき将来像】

- ・地域住民の活動拠点への交通手段を確保したい。
- ・バス交通を維持したい。

【提言】

- ・生駒市の地域公共交通総合連携計画素案に対して、住民のニーズが、駅までのアクセス中心から市内循環の新設を求める等変化し、バス路線の再編が求められている状況を鑑み、市内全体のバス路線網を提言します。
- ・位置づけたバス路線網導入プロセスを提言し、実効性を確保します。

【効果】

- ・市内バス路線網の位置づけは、バス事業者の参入を促進します。
- ・健康で文化的な最低限度の生活を営むために必要なバス交通を維持することができます。